

# エコアクション21

## 2017(平成29)年度 環境活動レポート



- 環境方針
- 推進体制と対象範囲
- 事業・組織の概要
- 中期目標(2016年度～2019年度)
- 2017年度取組計画
- 2017年度環境活動の実施状況
- 取組の評価と次年度の取組
- 環境関連法規の遵守状況及び違反・訴訟等の有無
- 代表者による全体の評価と見直し
- 社会貢献活動

株式会社 野尻金属

作成日：2018年3月30日

## 環境方針

### 基本理念

野尻金属は、資源の再生という事業活動を通じて、  
地球環境保全と豊かな社会作りに貢献します。

当社は創業以来、非鉄金属のリサイクルメーカーとして、溶解処理・粉砕処理の技術を生かし、資源の有効利用や資源循環に貢献しています。

当社のリサイクル製品やサービスそのものが、社会から要請されている循環型社会の構築に寄与しているという認識を新たにし、今後も更なるリサイクル事業の推進を目指すと同時に、環境負荷の低減に取り組む活動や、社会や自然との共生を通して、持続可能な社会の実現に貢献します。

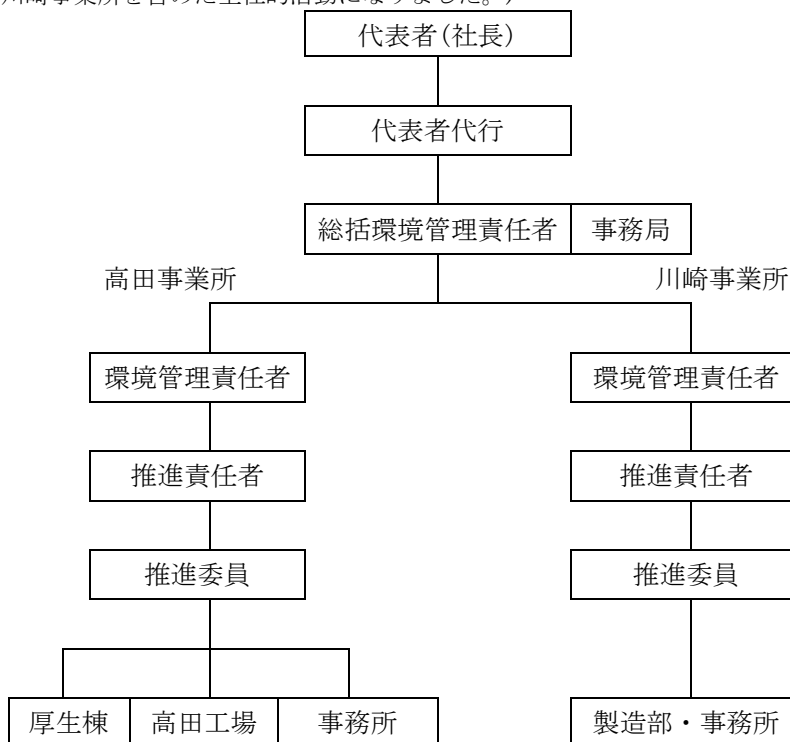
### 基本方針

- 1 事業活動の環境に及ぼす負荷を低減させるため、以下の活動に取り組みます。
  - ① 二酸化炭素排出量(電力及び化石燃料使用原単位)の削減
  - ② 水使用量の維持管理
  - ③ 廃棄物排出量の管理
  - ④ 化学物質の適正管理
  - ⑤ グリーン購入の推進
- 2 リサイクルの推進と生産性の向上を通じて、資源の有効利用に取り組みます。
- 3 当社に適用される環境関連の法規制を遵守します。
- 4 環境教育等を通じて、全社員の環境保全意識の向上に努めます。
- 5 環境保全活動に関する状況を開示し、社内外とのコミュニケーションを深めます。

2015年5月1日改訂  
株式会社 野尻金属  
代表取締役社長  
野尻 勝志

## 推進体制と対象範囲

当社のE A21活動を推進するために下記の組織を定めました(2017年3月1日改訂)。  
(2012年度より川崎事業所を含めた全社的活動になりました。)



## 事業・組織の概要

### 会社名・代表者名

株式会社野尻金属  
代表取締役社長 野尻 勝志

### 設立・資本金

1972(昭和 47)年 9 月 1 日  
4,400 万円

### 所在地

本社（登記上） 〒965-0845 福島県会津若松市門田町工業団地 22 番地  
本社（高田事業所） 〒969-6207 福島県大沼郡会津美里町字宮里 21 番地  
川崎事業所 〒210-0854 神奈川県川崎市川崎区浅野町 6 番 4 号

### 事業内容

非鉄金属の精錬、加工、販売及びリサイクル

### 総括環境管理責任者

佐藤勇(保全課長)

### 担当者連絡先

高田事業所 佐藤 勇(保全課長) TEL 0242-55-0071  
川崎事業所 悴田安弘(常務取締役) TEL 044-333-1105

### 事業の規模(2017 年度)

年商 34 億円  
主要製品生産量 12,300t

	従業員	敷地面積	床面積
本社(高田事業所)	41 名	26,091 m <sup>2</sup>	9,342 m <sup>2</sup>
川崎事業所	11 名	729 m <sup>2</sup>	537 m <sup>2</sup>

本社（登記上）



本社（高田事業所）



川崎事業所



\*レポートの対象期間は 2017(平成 29)年 3 月 1 日～2018(平成 30)年 2 月 28 日になります。

## 中期目標（全事業所）

2016～2019 年度の中期環境目標を以下のように設定致しました。（2016 年 3 月 16 日作成）

管理項目		年度環境目標			
		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
二酸化炭素排出量の削減	L P G	1%	2%	3%	4%
	都市ガス	1%	2%	3%	4%
	電力	1%	2%	3%	4%
	軽油	1%	2%	3%	4%
	C O 2	1%	2%	3%	4%
水使用量の維持管理	上水	±0%	±0%	±0%	±0%
	地下水	±0%	±0%	±0%	±0%
廃棄物排出量の管理	産業廃棄物	±0%	±0%	±0%	±0%
	一般廃棄物	±0%	±0%	±0%	±0%
化学物質の適正管理		適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
グリーン購入の推進		2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年

備考：基準値は 2015 年度実績値を採用します。

原単位は原料原単位とします。

中期目標(2016～2019 年度)の基本的な考え方は以下の通りです。

- 本社（高田事業所）生産設備の高田工場集約が完了し当面の間、新たな事業展開の計画が予定されていない為、4 ヶ年としました。
- 二酸化炭素排出量(電力及び化石燃料使用原単位)の削減・・・毎年 1%削減  
水使用量の維持管理、廃棄物排出量の管理、化学物質の適正管理・・・基準値を維持  
グリーン購入の推進・・・各事業所で毎年 2 アイテム以上購入



## 中期目標（高田事業所）

2016～2019年度の環境目標を設定致しました。

管理項目		基準値 2015年度	年度環境目標			
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量の削減	LPG	14.7m <sup>3</sup> /t	14.6m <sup>3</sup> /t △1%	14.4m <sup>3</sup> /t △2%	14.3m <sup>3</sup> /t △3%	14.1m <sup>3</sup> /t △4%
	電力	41.8kwh/t	41.4kwh/t △1%	41.0kwh/t △2%	40.5kwh/t △3%	40.1kwh/t △4%
	軽油	0.90L/t	0.89L/t △1%	0.88L/t △2%	0.87L/t △3%	0.86L/t △4%
	CO <sub>2</sub>	1,309t/年	1,296t/年 △1%	1,283t/年 △2%	1,270t/年 △2%	1,257t/年 △2%
水使用量の維持管理	上水	1,184m <sup>3</sup> /年	1,184m <sup>3</sup> /年 ±0%	1,184m <sup>3</sup> /年 ±0%	1,184m <sup>3</sup> /年 ±0%	1,184m <sup>3</sup> /年 ±0%
	地下水	51.6m <sup>3</sup> /年	51.6m <sup>3</sup> /年 ±0%	51.6m <sup>3</sup> /年 ±0%	51.6m <sup>3</sup> /年 ±0%	51.6m <sup>3</sup> /年 ±0%
廃棄物排出量の管理	産業廃棄物	34.8t/年	34.8t/年 ±0%	34.8t/年 ±0%	34.8t/年 ±0%	34.8t/年 ±0%
	一般廃棄物	73.2kg/年	73.2kg/年 ±0%	73.2kg/年 ±0%	73.2kg/年 ±0%	73.2kg/年 ±0%
化学物質の適正管理		PRTR法遵守	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
グリーン購入の推進		—	2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年

備考：原単位は原料原単位としています。

購入電力の二酸化炭素排出係数（東北電力）は0.598kg-co2/kwhで算出しました。

## 2017年度取組計画（本社（高田事業所））

2017年度において、以下の取り組みを進めて参りました。

管理項目		取組活動計画
二酸化炭素排出量の削減	LPG	生産性向上(不良撲滅) 集中生産による熱効率UP 溶解作業の平準化
	電力	照明のLED化促進 インバータの有効活用 不使用設備の待機電力遮断
	軽油	作業車両の移動距離短縮 アイドリングストップ徹底 法定速度・構内速度遵守 ホイストクレーンの利用促進
水使用量の維持管理	上水	節水(社外工事業者へも協力要請) 節水型シャワーヘッド導入 風呂利用期間の限定 洗濯物のまとめ洗い徹底
	地下水	雨水の有効利用 除雪方法の再考(薬剤による凍結防止)
廃棄物排出量の管理		耐火物施工方法の再考(延命化) 一般廃棄物の分別
グリーン購入の推進		2アイテム

## 2017年度環境活動の実施状況とその評価（高田事業所）

管理項目	目標	実績	数値評価	取組評価
①二酸化炭素排出量の削減				
LPG	14.4 m <sup>3</sup> /t	15.6 m <sup>3</sup> /t	×	○
電力	41.0kwh/t	43.5kwh/t	×	○
軽油	0.88L/t	1.00L/t	×	×
CO <sub>2</sub>	1,283t/年	1,260t/年	○	—
②水使用量の維持管理				
上水	1,353 m <sup>3</sup> /年	1,203 m <sup>3</sup> /年	○	○
地下水	51.6 m <sup>3</sup> /年	39 m <sup>3</sup> /年	○	○
③廃棄物排出量の管理				
産業廃棄物	34.8t/年	135t/年	×	○
一般廃棄物	73.2kg/年	140kg/年	×	○
④化学物質の適正管理	PRTR 法遵守	適正に管理	—	○
⑤グリーン購入の推進	2アイテム/年	2アイテム/年	○	○

## 取組の評価と次年度の取組（本社（高田事業所））

管理項目	取組の評価	次年度の取組	
二酸化炭素排出量の削減	LPG	削減手順通り行われていたが、低歩留り原料使用と炉修理工事等も含み減産。その影響が大きいと思われる。	不良品数が下がった事は評価できるが、年々の減産傾向をいかに改善していくか。原料使用量の改善に取り組まれたい。
	電力	減産の影響は受けている。数値目標では悪化しているように見えるが、前々年度から見れば右肩下がり。努力は見えている。	部門別に見れば生産方法を変えた事で、数値悪化した所もあるが、原因の把握をしっかりと上で目標値を再検討したい。
	軽油	入荷原料の増大による事と、除雪稼働率が高く悪化したが、。トラック稼働率が低く総合的には年間目標を達成。	トラックを個別管理として新たに目標を設定。フォークリフトはエコ運転を心掛けて作業に当るように指示する。
水使用量の維持管理	上水	浴槽使用対策は有効でした。しかし、冬期に開放したところ悪化したが、目標はクリアしたところは評価できる。	人数も増加傾向であるため、注意しながらエコを推進されたい。ただし、保健衛生上無理な要求をしない取組みをお願いします。
	地下水	融雪利用を最低限とし、融雪剤を多用したことは評価できる。又、雨水利用で溶解製品冷却水を循環する事で大幅に削減できている。	新たに融雪設備を一部導入した。季節要因である科目だが、テスト的にデータ所得。なるべく地下水利用せず、融雪材を有効利用していく。
廃棄物排出量の管理	瓦礫類の発生は縮小傾向であったが、今年度は炉故障により大量の瓦礫が発生した。しかし瓦礫の管理は定着しているのでそこは評価している。	廃パレットがやや多い傾向。適正量保管量に注意しながら適切に処理する。	
化学物質の適正管理	第1種化学物質の排出量及び移動量の届出福島県化学物質適正管理指針に基づく報告	第1種化学物質の排出量及び移動量の届出福島県化学物質適正管理指針に基づく報告を期日まで届け出。	
グリーン購入の推進	環境配慮品購入リストに基づいて購入。前年度のように必要以上に購入しないよう、今年度は2アイテムに留めた。	次年度も継続してください。	

## 中期目標（川崎事業所）

2016～2019年度の環境目標を設定致しました。

管理項目		基準値 2015年度	年度環境目標			
			2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素排出量の削減	LPG	30.6m <sup>3</sup> /t	30.3m <sup>3</sup> /t △1%	30.0m <sup>3</sup> /t △2%	29.7m <sup>3</sup> /t △3%	29.4m <sup>3</sup> /t △4%
	電力	57.2kwh/t	56.6kwh/t △1%	56.1kwh/t △2%	55.5kwh/t △3%	54.9kwh/t △4%
	軽油	8.20L/t	8.12L/t △1%	8.03L/t △2%	7.95L/t △3%	7.87L/t △4%
	CO <sub>2</sub>	321t/年	318t/年 △1%	315t/年 △2%	311t/年 △3%	308t/年 △4%
水使用量の維持管理	上水	555.6m <sup>3</sup> /年	555.6m <sup>3</sup> /年±0%	555.6m <sup>3</sup> /年±0%	555.6m <sup>3</sup> /年±0%	555.6m <sup>3</sup> /年±0%
	地下水	—	—	—	—	—
廃棄物排出量の管理	産業廃棄物	—	—	—	—	—
	一般廃棄物	99.6kg/年	99.6kg/年	99.6kg/年	99.6kg/年	99.6kg/年
化学物質の適正管理		PRTR法非該当	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
グリーン購入の推進		—	2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年	2アイテム/年

備考：原単位は原料原単位としています。

購入電力の二酸化炭素排出係数（東京電力）は0.530kg-co2/kwhで算出しました。

## 2017年度取組計画（川崎事業所）

2017年度において、以下の取り組みを進めて参りました。

管理項目		取組活動計画
二酸化炭素排出量の削減	LPG	溶湯温度管理徹底 生産性向上(不良品の撲滅)
	電力	集塵機の運転管理徹底 デマンドモニターによるピーク電力削減
	軽油	作業車両の移動距離短縮 アイドリングストップ徹底 急発進・急加速低減
水使用量の維持管理	上水	漏水箇所改善 洗濯はまとめ洗いを徹底 節水
	地下水	該当せず
廃棄物排出量の管理		一般ゴミと売却品の分別 裏紙の使用による減量化
グリーン購入の推進		2アイテム以上拡大

## 2017年度環境活動の実施状況とその評価（川崎事業所）

管理項目	目標	実績	数値評価	取組評価
① 二酸化炭素排出量の削減				
都市ガス	30.0 m <sup>3</sup> /t	28.9 m <sup>3</sup> /t	○	○
電力	56.1kwh/t	55.5kwh/t	○	○
軽油	8.0L/t	7.88L/t	○	○
CO <sub>2</sub>	321t/年	349t/年	×	—
② 水使用量の維持管理				
上水	556 m <sup>3</sup> /年	458 m <sup>3</sup> /年	○	○
地下水	非該当	—	—	—
③ 廃棄物排出量の管理				
産業廃棄物	非該当	—	—	—
一般廃棄物	100kg/年	100kg/年	○	○
④ 化学物質の適正管理	非該当	—	—	—
⑤ グリーン購入の推進	2アイテム/年	2アイテム/年	○	○

## 取組の評価と次年度の取組（川崎事業所）

管理項目	取組の評価	次年度の取組	
減 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	都市 ガス	年間で目標達成。上期効率悪い製品増で未達だったが、下期目標達成手段徹底で挽回出来たことは評価出来ます。	次年度も生産効率を上げ、引き続き目標達成に取り組む。
	電力	年間で目標達成。デマンド対応など、こまめな管理は評価出来ます。	従来の目標達成手段を励行し、次年度の目標に取り組む。
	軽油	年間で目標達成。上期、遠方の効率輸送が出来ず、未達となったが、下期、その点が改善され達成となったことは良かった。	目標達成手段を遵守し、次年度の目標に取り組む。
維持 管 理 水 使 用 量 の	上水	年間で維持管理目標達成。達成手段は出来ていました。	年間で達成出来ているので、次年度も維持管理に取り組んでください。
	地下水	—	—
廃棄物排出量の 管理	年間で目標達成。分別などよく出来ていました。	次年度も継続してください。	
化学物質の 適正管理	該当せず。	—	
グリーン購入の推 進	年間目標達成。探すのに苦労はわかります。今後も対象商品に注意を。	—	



## 環境関連法規の遵守状況及び違反・訴訟等の有無

遵守状況については、環境管理責任者、副環境管理責任者及びにおいて統括しており、環境関連法規の遵守に努めています。

2017年度も環境に関わる法規制等の違反はありませんでしたが、小規模の発煙が発生し消防署警戒出動に至った事は残念に思います。

このような事故を再発しないように安全対策を徹底し、事業活動に当たって遵守しなければならない環境関連法規の自主的な確認を行い、環境保全活動に取り組んで参ります。

## 代表者による全体の評価と見直し

LPGについて品種ごとに原単位を管理できるようになった事を評価する。

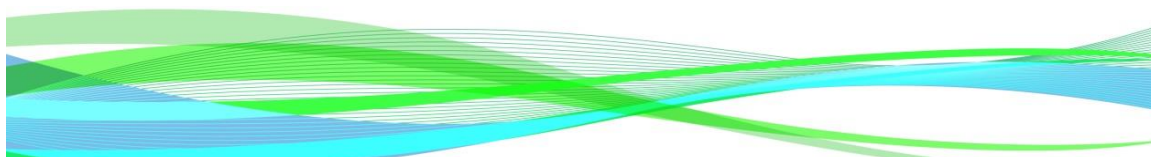
また、結果的に目標値が上がる事になってしまったが、過去の実績集計の誤りを見つけ、修正した点は評価する。

作業手順書の手直しは進んでいたようだが、改訂も同時に進められるよう、見直し方法を改善してほしい。

削減に手詰まり感があるように思われるが、節約の意識を忘れないように。推進委員は機械をみて教育や率先垂範を行うこと。

ガイドライン 2017年版に適合する環境経営システムを今年度中に検討・確率し、2019年の移行審査を受審できるようにすること。

2018年3月29日  
代表取締役社長  
野尻 勝志



## 社会貢献活動

グリーンサイトライセンスの登録

グリーンサイトライセンスとは、環境貢献活動と、サイトでの環境貢献のPRが結びついたサービスで、企業や消費者が環境保護を身近に感じる機会を提供しています。

当社は2013年4月25日に登録し、継続してモンゴルでの植林を支援しています。

また、当社のホームページ上に証明書を設置しPRに利用しています。



## 工場周辺の環境美化



日 時：

2017年10月27日

時 場 所：当社本社工場及  
び高田工場周辺

参加人数 19人

## AED 自動体外式除細動器の導入

**AED**  
Automated External Defibrillator



自動体外式除細動器

2014年度よりAEDを設置しました。

緊急時、全社員が救命措置を取ることができ、不慮の事故に対し迅速に対応できるように取り組んでいます。

